



●新しいプログラムの打ち合わせで、映像制作会社を訪れたNPO代表の平岩さん(中央)、港区の「メディアフォーユー」で、●裁判官役の弁護士(中央奥)を中心に、活発な議論が繰り広げられた裁判の授業(25日、新渡戸文化小学校で)



料理の授業で、市民先生の説明を真剣に聞く子どもたち(17日)

日替わり市民先生 放課後に学ぶ社会

ホッパ
20 東京 11
ぴれいあ

「本当に知らないんですから」「正直に話した方がいいと思います」――中野区にある私立新渡戸文化小学校で放課後、法廷さながらのやりとりが教室で交わされた。

世田谷、港区の小学校の学童

●被告人役を演じるのは本物の弁護士(左)。普段接することのない職業に、子どもたちも興味津々だ(25日) ●アートの授業で指導する陶芸家の市民先生(17日、いずれも中野区の新渡戸文化小学校で)

ら始まった「アフタースクール活動」のこまだ。

この日行われたのは「裁判」の授業。被告人役と裁判官役を務める2人は学校の先生ではなく、「市民先生」と呼ばれる本物の弁護士だ。「子どもたちに教えるのは、仕事と違った楽しみがありますね」と弁護士の岡田尚人さん(33)も満足げた。

サッカー選手など多彩な先生が登場。今では140種類以上のプログラムがある。ダンスの得意な地元のおじさんが先生になることもある。

様々な職業の大人を派遣し、子どもたちが楽しめる放課後を提供しよう。そんな思いで活動しているのは、2005年に設立されたNPO法人「放課後NPOアフタースクール」(港区)。

新渡戸文化小学校では、連日プログラムが用意されている。NPOにとって初の継続的な試みだ。この日、子どもを迎えに来た中野区の山田江里子さん(42)は「普段接することのない人たちに会え、子どもの世界が広がるきっかけになりそう」と期待している。

平岩さんはこの春、勤めていた百貨店を辞め、仕事をNPO一本に絞った。「子どもと社会をつなぐコーディネーターとして全国の先駆けになれば」子どもを優しく見つめるまなざしの奥に、強い意志が見えた。(写真と文・池谷美帆)

